

建築文化奨励賞

景観に配慮した建築物

伝統的景観と市民に開放された店先

山村 邸

鉄道敷設まで利根川水運で栄えた旧佐原市の中心部は、かねてより伝統的景観整備事業を進め、近年次第に街の景観を甦らせて、年毎に観光客も増えていると聞く。

山村家は水郷佐原に代々続いた米問屋、街中より少し外れた銚子への街道筋の店構えは築100年、間口6間の大店である。店先の斜め前は、関東3大祭りでも高い佐原祭りの山車の曲角で、見せ場のひとつだという。

山村邸は家業を閉めて久しいが、軒先深い店先と土間、帳場があった小上がり座敷と鉄製金庫など、往時の姿のまま手入れよく保存されてきた。

この街とこの家を守る施主は、中心部からは途切れがちになる景観形成への協力をめざし、この建築の単なる保存から歩を進めた街づくり参加を目標とした。

建物外観維持を守り、店先の深い軒下は通りと建物の間を自在にさせる格子戸で前面を囲み、在来の店戸を全面ガラス戸に変えた。これにより店内は昔姿を歩道からも覗ける小博物館、多目的小ギャラリーにも活用できる。

設計者の協力を得て、施主の願いは見事に市民への開放も成功させる好例となった。伝統は現代に生きてこそ価値がある実証として奨励賞の対象に評価された。(野口 瑠璃) (撮影/(株)スタジオ宙)

建築主：Y.M氏

設計：株式会社スタジオ宙

施工：岡野工務店

所在地：香取市佐原



景観形成道路からの住宅全景



1階道路側には、この町の伝統的な軒下空間にならって格子戸を設けた。現在はギャラリースペースとしても活用されている。

7

建築文化奨励賞

ユニバーサルデザインに配慮した建築物

古民家をリフォーム・快適な住まいに

菊 込 邸

93歳のお父様が独りで暮らしていた家は、築後100年余を経過した古民家。長年の生活習慣から、北側の日の当たらない茶の間が生活の中心で、大きな段差に阻まれることもあり、閉じこもりがちだったという。

そろそろご自身の老後の暮らしを考え始めた息子夫婦との同居を機に、古民家の趣を生かしながら、最小限の予算でリフォーム。明るく、日当たりのよい、みんなが快適に過ごせる家が実現した。

木造平屋建て147.86m²(改修前 145.10m²)

南側の和室(客間)の設えはそのままにしながら、既存建物の間取りにとらわれず、水周りを中心に機能的な平面計画を取り入れ、居住性を高めている。建物の歴史を感じさせるどっしりとした大黒柱、蚕部屋を支えていた大きな梁が、リビングの東南に開けたウッドデッキと調和して、懐かしい雰囲気をかもし出している。

日当たりを優先に、全面的に撤去された土庇の役割(建物の佇まい・日照調整)、耐久性と維持管理を優先した内外装材の選択等に、もう一工夫欲しかったとの意見もあったが、高齢のお父様が「慣れ親しんだ我が家」で住み続けられるように、と多くの困難を乗り越えて、最善策を見つけながら実現した「快適な住まい」へのリフォームを高く評価したい。(夏目幸子)

建築主：菊込 佑

設計：株式会社ゆま空間設計

施工：杉田工務店

所在地：鴨川市



外観 茅葺屋根の形



天井大梁を現したリビング

(撮影/加瀬澤文芳)